

NPC2016Brighton 参加雑感

オルガノ（株）大橋伸一

今回の NPC2016 は、日立 GE・長瀬氏のスピーチに続く British Airways i360 からの夜景観賞（写真 1）でスタートしました。ブライトンの夜景を眺めながら、海外の原子炉水化学関係者と 2 年ぶりに旧交を温めることができました。東日本大震災以降は、原子力関連ビジネスの停滞により直接交流することが少なくなったため、水化学国際会議は貴重な機会です。

翌日の月曜日からは、連日の口頭発表とポスター発表が続きます。ポスター発表の数が多いのは NPC2014 札幌と変わらずで、あちこちで活発な議論が交わされていました。当然ですが、世界では日本国内と違い原子力発電所は前と変わらずに稼働し、運転データは蓄積され、研究活動も継続されています。各国からの発表を聞きながら、正直うらやましいと思うことは多々ありました。

この状況で、日本からの参加者の皆さんの努力には頭が下がりました。国内の原子力発電所が停止している厳しい状況が続く中で、補機系での取り組みや過去データの検証、ラボ試験による新しい取り組みの提案など、工夫された研究内容を発表されておりました。発表件数もさることながら内容も完成度が高く、中でも INSS・寺地氏はポスター賞を獲得されるなど日本からの参加者の活躍が目立つ会議でした。皆様の研究姿勢に感心すると同時に、自分もまだまだ工夫が足りないと反省させられました。

余談ですが、2 年前に NPC2016 が英国ブライトンで開催されることが決まった際に、真っ先に思い浮かべたのはイギリスの「天気」と「料理」です。それまで英国に滞在したことは無いので全くの思い込みなのですが、英国は常に天気が悪く（曇りか雨）、料理はローストビーフ以外には取り立てておいしいものは無い、という固定観念がありました。特に料理については、以前英国に旅行したことのある知り合いが口をそろえて「おいしくない」とけなすので、正直のところあまり期待せず（好奇心はありましたが…）英国に向かいました。

ところが、今回滞在したブライトンは、少々肌寒いものの NPC2016 の期間中は連日晴天で、会議の合間に海岸線の景色を楽しみながら（写真 2）ジョギングすることができました。また料理についても、店と料理を選べばおいしいものはありました（3 勝 2 敗くらいでしょうか…）。何事も偏見を持つてはいけません。皆さんも英国に行った際には、ローストビーフやフィッシュアンドチップス以外の料理にもチャレンジしてみてください。

以上

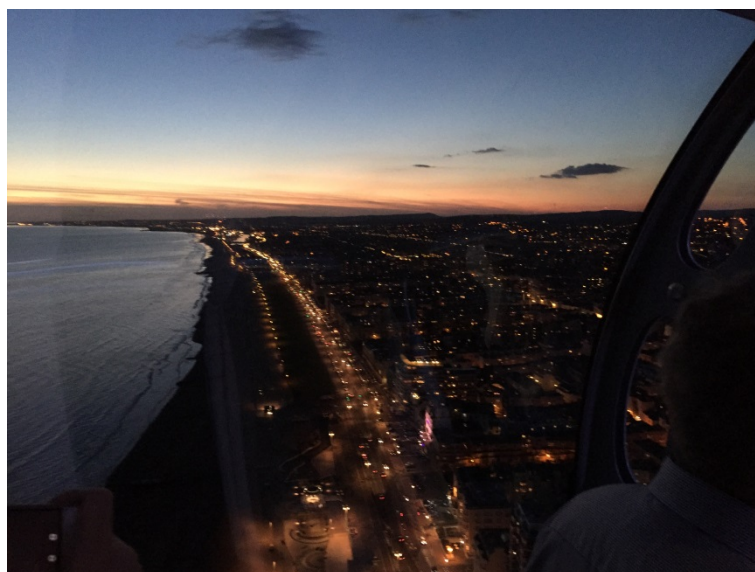


写真1 British Airways i360 からの夜景

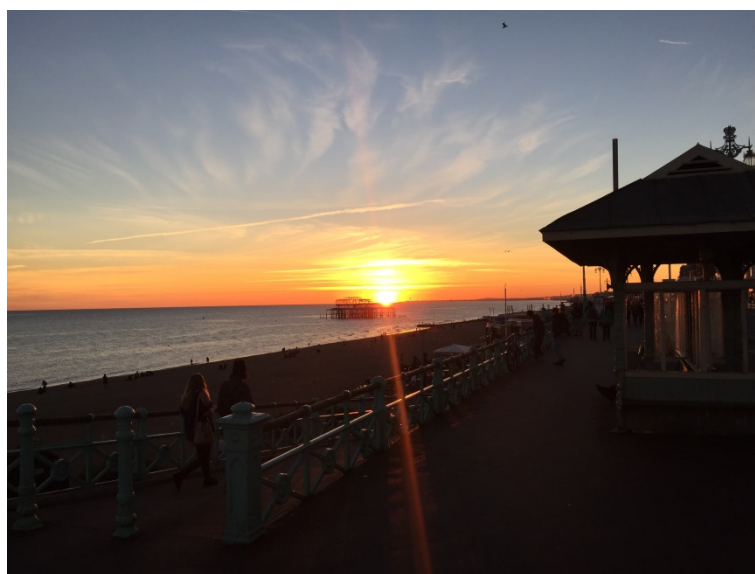


写真2 海岸線の景色